

# 活動成果報告書

令和3年度（第25回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 市民の安全を守るため新型コロナワクチンの希釈・充填適正実施の取り組み ～充填ミスZEROを目指して～	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 牛久市役所 新型コロナワクチンプロジェクトチーム 代表者：野口 ちひろ	
勤務先：牛久市役所 所 属：保健福祉部 健康づくり推進課 所在地：〒300-1292 茨城県牛久市中央3-15-1 TEL：029-873-2111 FAX：029-873-1775	 <b>充填シート</b> <b>ワクチン管理表</b>

## ◇活動方針

新型コロナワクチン接種は、12歳以上の全市民が対象となり、実施主体は市となった。1994年の予防接種法改正により、集団接種から医療機関での個別接種が主体となり、大規模な集団接種は行われていない。集団接種の経験がある保健師も少なく、取扱いワクチンについても、既に注射器に充填されているワクチン、又は希釈不要のワクチンといった形状となっており、希釈が必要な新型コロナワクチンは、今までとは異なる方法で実施する必要がある。そこで、市民に安心安全な接種を提供するためには、まずはファイザー社製新型コロナワクチンの取り扱いについて、希釈・充填等の調製作業を適正に行うことが必要であることから、集団接種で多くのスタッフが関わる中で、間違いのない有効性のあるワクチンが提供できるよう、あらかじめ対策を取ったワクチン調製手順を作成することとした。

## ◇活動内容とその成果

### <活動内容>

1. ファイザー社製ワクチンの取り扱い方法についての情報収集と提供
2. 国から示された「ワクチン接種間違い事例」の検証と対策案作成
3. ワクチン調製手順の作成
4. ワクチン充填シート、ワクチン管理表の作成
5. ワクチン調製訓練の実施
6. 実施後の検証

# 活動成果報告書

## <活動成果>

1. 調製方法を理解した上で調製作業を担うように、ファイザー社製のワクチン取り扱い説明資料や動画を事前に情報提供
2. 「ワクチン接種間違い事例」の検証と対策案を事前に作成

事例	生理食塩水の量の間違い	ワクチン濃度の間違い
原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>①希釈、充填の調製工程が多く、希釈は生理食塩水1.8ml、ワクチン液の充填は0.3mlと量が異なるため調製途中で混乱しやすい</li> <li>②調製工程に生理食塩水1.8mlの吸引を入れると、量の確認が充填者のシングルチェックのみとなり不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生理食塩水注入前のバイアル内液量と、充填済バイアル残液量がほぼ同量である</li> <li>②充填済バイアルと充填未バイアルを混在して机の上に置いている</li> <li>③充填済及び未充填のバイアル数とシリンジ数が合致しているのかの確認が不十分</li> <li>④調製作業の進捗管理者がいなく、充填者の単独作業となっている</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生理食塩水1.8mlの準備は調製工程に入れずに、事前に準備する</li> <li>②準備者とは別の人が1.8ml正しく吸われているかをダブルチェックする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調製作業の進捗管理をするワクチン統括者を置く</li> <li>②作業前後で充填者とワクチン統括者が数や調製作業が適正にされたかを確認する</li> <li>③1回の調製作業に必要な物品のみ机に置く</li> <li>④空バイアルはすぐに回収する</li> </ul>

3. ワクチン調製手順のポスターを作成し、充填エリアに掲示

4. ワクチン充填シート、ワクチン管理表の作成

調製工程が複雑なためワクチン濃度の誤り等が発生すると考え、調製手順及び1回の調製に必要なシリンジ、バイアル等の置き場所を表示した充填シートを作成。調整時には充填者は必ず使用。

また調製作業の進捗管理と接種実績が一覧で確認可能なポスターサイズのワクチン管理表を作成。ワクチン統括者、充填者、接種会場統括者など集団接種に関わる従事者が確認できるようにした。

5. ワクチン調製訓練の実施

令和3年4月の医療従事者対象の集団接種会場において、牛久市医師会の看護師による調整作業を市保健師が見学し、手技を確認後、実施。令和3年6月からの市民対象の市集団接種の際は、経験者の調製を見学の上、指導を受けながら正しい手順でワクチン調製が実施できる体制とした。

6. 実施後の検証

集団接種実施後は、毎回ワクチン調製のタイムスケジュールやワクチン統括者の役割を検証。検証結果をワクチン統括者間で共有し、次回の集団接種に反映していった。

7. 6月から8月の20日間に計12,107人（1日最大924人）の市集団接種を実施したが、充填ミスは起こらず安全かつ順調に接種完了することができた。

## 活動成果報告書

### ◇今後の計画

感染症対策は公衆衛生行政の原点であり、保健師には地域全体の感染症予防対策を向上させていくという役割がある。新型コロナワクチン接種については、新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、結果として新型コロナウイルス感染症のまん延の防止を図るという目的がある。そのため、より多くの市民が安心・安全に、有効性の高いワクチンを速やかに接種完了できるように、計画・実行・評価・改善のPDCA サイクルの中で、集団接種における新型コロナワクチンの希釈・充填の適正実施の体制を構築した。ミスのないことがあたり前とされているが、充填ミス ZERO をめざし、ワクチン統括者を経験した保健師の振り返りをもとに、牛久市独自の希釈・充填マニュアルを作成中。また、新たにモデルナワクチンの充填マニュアルについても新たに作成予定。